

# ハイマート Heimat

ぐんま日独協会会報

2003年 3月12日 発行

27

5月ドイツ  
親善旅行  
独日協会総会  
に出席

発行者 平形 義人  
発行所 ぐんま日独協会

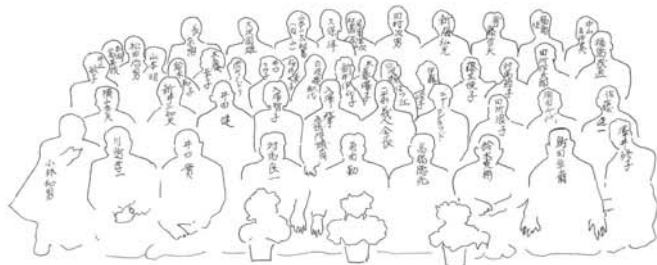
〒377-0007  
渋川市石原966 母心堂 平形眼科方  
☎ 0279-22-0149 FAX 0279-24-6867



アンサンブル・ベルジュラックを迎えてのX'mas (2002年12月8日・群馬会館大理石の間)

■ハイマート27号 目次……頁

- ☆表紙 クリスマス…………… 1
- ☆巻頭言・2003(創立15周年)…………… 2
- ☆クリスマス報告 写真…………… 2～3
- ☆ぐんま日独報告資料…………… 4
- ☆朝雲先生 玉縞…………… 5
- ☆歴史を学ぶ 新島襄と群馬…………… 6
- ☆ドイツ情報あれこれ…………… 7
- ☆ドイツ親善旅行とバロック演奏会案内… 8



## 2003 (ぐんま日独創立15周年)

ぐんま日独協会会長 平形 義人

1988. 4. 清水県知事を先頭に『ドイツ好き集れ』を相言葉に前橋商工会議所大ホールに集る者300人、ハリヤー大使御一行をお迎えしてよりここに15年。以後毎年大使、公使、参事官をお迎えし、大会をもち、記念植樹、ハイマートの発行、ベルツ先生やブルーノ・タウトを顕彰し、全国日独協会とも協調し、殊に昨年は明治6年に博愛の碑をウイルヘルム皇帝から贈られた宮古島の大会

に臨み、ドイツサッカーの奮闘を観戦に来日されたラウ大統領を秋篠宮同妃両殿下御臨席の下に歓迎致しました。本年は創立15周年記念行事として、有志を募って5月30日ブラウンシュバイク市で開催の「日独協会の総会」に参加致します。継続は力なり。2005年は『日本に於けるドイツ年』です。今後益々協力一致して我々ドイツ好きのぐんま日独協会の前進を計りましょう。 以上

## 2002年ぐんま日独協会 クリスマス会報告

02. 1. 23. 役員会の席で「ことしからクリスマス会は担当制で、井口ご夫妻と島田が他の役員の方の支援をいただいてやる……」と決まり「段取り八分」の言葉通りを念じてみたものの都合4回の打合せを経て、やっとのことで本番を迎えることができました。

12月8日(日)当日の設営は、対馬・井口・鈴木各御夫妻、受付は澤井修子・木暮澤子ほかのご婦人方が当って下さいました。音楽演奏者は始る1時間前にスタンバイOK。

◆定刻2時、日本・ドイツ両国旗の下に50人参加者全員起立して演奏に合わせて両国々歌を大合唱してオープニングとなりました。

◆最初に、埼玉大学教授 安達忠夫先生のカセットテープによる詩の朗読、詩はドイツ古典派詩人Hölderlin(1770~1843)のOde(讃歌)Gesang des Deutschen(ドイツの歌)で、澄みきったフルートの音色にも似た心に滲み入るものでありました。

◆続いて「ベルジュラック木管合奏団」(田村次男:オーボエ、新海弘光:クラリネット、福島茂直・桂:ホルン、斉藤哲夫・中山満美:ファゴット)がヘンデル作曲「水上の音楽」、ハイドン作曲「ディベルティメント」を演奏、曲の紹介は佐藤進一先生、終って平形会長から金一封のお礼とStollenのおみやげが手渡されました。

◆名演奏の感動覚めやらぬうちに参加者全員の記念写真(表紙掲載)シクラメンを前面に置いて撮影担当は小林和男常任理事。

◆全員所定の席についてから鈴木克彬事務局長から、本年度行った主要行事(渋川の総会・沼田のSommer Treffenなど)



◇司会は、島田卓爾副会長、受付する澤井修子理事。

の報告と、来年度予定されている訪独旅行の説明があり。

◆平形会長のドイツ語の「歓迎の挨拶」続いて来賓を代表されて参議院議員入澤肇先生、国際課長井田建氏、草津町国際交流員



◇全員起立して、日独国歌を唄う。

Conrad Ninaさんの興味溢れる祝辞がありました。

後半の司会は、角田勤副会長、井口實会計が担当されて、ティーパーティーに入る。国際交流協会専務理事大澤国雄氏のワインによる乾盃で懇親会となりました。

◆来賓のご紹介、会員各人の自己紹介・ショートスピーチが終り、照明を落しキャンドルサービスのうちにクリスマスソングをとの段取りが、薄暗くて楽譜が見えないということで、急ぎ明るくして藤生悦子会員のリードで「聖しこの夜」「神のみ子は」の大合唱。

◆お待ちかねの、鈴木克彬・和子ご夫妻のレントラーは、活発の中に艶やかな民俗性あふれる踊りを堪能させて頂いた。このあとにご夫妻指導によるフォークダンスで全員が輪になり心を通じ合い和やかな雰囲気の中に楽しい諸行事が終りました。

◆しめくりは、佐藤進一副会長のご挨拶。

このクリスマスに寄せられた祝電は、沼田市長星野巳喜雄、参議院議員の中曾根弘文、山本一太、衆議院議員の尾身幸次、前橋市議の中島資浩の各氏からでありました。

特に本年は、親しく参議院議員入澤 肇・智子ご夫妻・同秘書 長 宗順氏や群馬茶道会の白波瀬はつ江・和代両先生、そして更に草津町からConrad Nina国際交流員が参加して下さり、加えて素晴らしい落ちつきのある名曲を演奏して下さいました。ベルジュラックの先生方がお帰りに際してサインを色紙に認められたご好意は感謝とともに末永く私たち会員の心のうちに残されるであります。ご来賓にいただいた来賓の皆さまには、即日お礼のお手紙を差し上げました。会員の皆さんも、温かいご協力・ご支援を賜りましたことを紙面を拝借して感謝申し上げます。(島田卓爾記)



◇素晴らしい音楽をきかせてくれた、ベルジュラック合奏団の人びと。



◇ドイツ語で、やさしく語りかける平形義人会長の歓迎のご挨拶。



◇参議院議員入澤 肇先生（渋川市出身）のご祝辞と入澤智子夫人



◇流暢な日本語で、ご挨拶する草津町国際交流員のコンラード・ニナさん。



◇華麗な踊り（レントラー）を披露する、鈴木克彬事務局長と和子夫人。

◇輪になって踊ろうよ、フォークダンス



## 総会月の変更と協会資料のお知らせ

平成15年度の総会は、ドイツへの親善訪問旅行を5月に行う関係から、本年度に限り、7月の帰朝報告会時に延期致しました。……役員会で了承済…… 就きましては、役員会で承認された2002年の事業報告・決算報告及び2003年の事業計画・予算書等を記載いたしましたのでご一読ください。なお、役員員の任期は2ヶ年となっておりますので変更はありません。

### 2002年(平成14年)ぐんま日独協会事業報告 ・・・2002:1:1-03:2:13・・・

- 02年1月23日 役員会 群馬県国際交流協会 サロン室  
 2月11日 機関紙「ハイマート」25号発行  
 3月1日～3日(財)日独協会全国大会 平形会長出席  
 3月24日～25日 ハンブルクさくらの女王 アンネマリ・メツァイ女史と  
 日本田さくらの女王 松丸友紀さんが茨城県の平形会長宅を表敬訪問  
 4月4日 役員会 群馬県国際交流協会 サロン室  
 4月14日・15日 渋川・伊香保大会(アムステルダム文化部長を遊べて)  
 A 総会  
 B 講演会 講師 花井 浩(財)日独協会常任理事 石野 潤行 講師  
 C 群馬県庁表敬訪問 高山 誠知 市面談  
 参加者 講演会 84名 懇親会 49名 宿泊 27名  
 5月31日(財)日独協会セミナー 鈴木事務局長出席  
 6月20日 役員会 群馬県国際交流協会 サロン室  
 アンネ・バルコウ女史追悼会(倉津町国際交流員) 群馬会館  
 7月1日 ドイツ連邦共和国 ラウ大統領 来日記念祝賀会  
 平形会長、野馬副会長、島田副会長、鈴木事務局長出席  
 9月12日 草津町中澤 三さんの歌謡 録音式 平形、島田、鈴木、出席  
 9月21日 役員会 沼田市ヴィラ ヴェーク  
 Sommer Treffen 沼田 (沼田市ヴィラ ヴェーク)  
 講演会 講師 長澤 昭雄 先生「日独国民性の違いについて」  
 参加者 講演会 199名 懇親会 89名  
 10月6日 群馬県国際フェスティバル参加 会員12名参加  
 10月10日11日 ドイツ Bad Sackingen コアヒム・ウーリア氏来朝  
 ・・・草津町国際交流員ニナ コンラードさん及びぐんま日独協会員が案内  
 10月21日 平形会長・鈴木事務局長 東京の日独協会及びドイツ観光局訪問  
 11月15日 機関紙「ハイマート」26号発行  
 12月8日 ぐんま日独クリスマス会 参加者 入澤 幸 議員 議員夫妻はじめ57名  
 12月18日(財)日独協会会員のバッチ制定・今後会員へのバッチ配布予定  
 12月24日 ドイツカレンダー 協会役員に配布  
 1月15日 親善訪問への 新年あいさつ 平形会長他  
 1月18日 Winter Treffen 前橋 (県社会福祉総合センター)  
 講演会 講師 ドイツ人 ゲオルグ・レナーツ氏「日独の環境問題比較」  
 2月13日 役員会 群馬県国際交流協会 サロン室

### 2002年(平成14年)ぐんま日独協会会計報告 (実績・予算対比表)・・・2002:1:1-2002:12:31・・・

収入の部			
	実績	予算	差額
繰越金	195,951	165,951	+30,000
会費	694,000	460,000	+234,000
個人	351,000 (3,000×117)	300,000 (3,000×100)	+51,000
家族	13,000 (500×26)	10,000 (500×20)	+3,000
法人	330,000(10,000×33)	150,000(10,000×15)	+180,000
事業費	1,164,800	847,000	+317,800
群馬・伊香保大会費	854,800	637,000	+217,800
Sommer Treffen 沼田	142,000	0	+142,000
クリスマス会	168,000	210,000	-42,000
寄付金・雑収入	154,812	100,000	+54,812
祝金	59,000		
寄付金	86,200		
本販売	2,100		
その他	7,512		
合計	2,209,563	1,572,951	+636,612
支出の部			
事業費	1,363,860	902,000	+461,860
群馬・伊香保大会	962,300	670,000	+292,300
Sommer Treffen 沼田	145,720	2,000	+143,720
クリスマス会	243,840	230,000	+13,840
国際交流フェスティバル	12,000	0	+12,000
会議費	12,290	10,000	+2,290
通信費	96,540	90,000	+6,540
事務費	409	5,000	-4,591
印刷費	468,300(ハイマート2冊)	450,000	+18,300
講演会費	0(含謝礼)	60,000	-60,000
広報費	0	0	+0
出張交通費	20,000	30,000	-10,000
交際費・寄付金	20,000	25,000	-5,000
バッチ・講師人費	42,600	951	+41,649
郵便局手数料	16,930	0	+16,930
合計	2,040,929	1,572,951	+467,978
<b>次期繰越金 収入(2,209,563) 支出(2,040,929)=168,634</b>			

### 2003年(平成15年)ぐんま日独協会事業計画(案) ・・・2003年(平成15年)2月1日～04年(平成16年)5月・・・

- 2003年2月13日(木) 役員会 群馬県国際交流協会 サロン室  
 3月 機関紙「ハイマート」27号発行  
 3月18日・19日(財)日独協会総会出席 東京麹町会館  
 4月26日(土) ドイツ人 ヴァロック音楽 演奏会  
 ◎ 例年、4月に行っているぐんま日独協会の総会は、ドイツ親善旅行実施のため、本年度に限り、7月に予定している帰朝報告時に延期する。  
 5月26日～6月5日 ドイツ連邦共和国へ親善旅行  
 ・・・日独協会総会(北ドイツ ブラウンシュヴァイク市)に出席  
 7月 総会  
 Sommer Treffen(夏例会) ドイツ親善旅行 帰朝報告会  
 8月 機関紙「ハイマート」28号発行  
 10月 群馬県国際フェスティバル 参加  
 11月 役員会  
 12月 ぐんま日独 クリスマス会  
 2004年2月 役員会  
 2月 Winter Treffen(冬例会)  
 2月 機関紙「ハイマート」29号発行  
 4月 役員会  
 5月 ぐんま日独協会 大会(総会)

### 2003年(平成15年)ぐんま日独協会予算(案) ・・・2003年1月1日～04年12月31日・・・

収入の部			
	本年度予算	前年度実績	
繰越金	168,634	195,951	
会費	542,500	694,000	
個人	330,000 (3,000×110)	351,000 (3,000×117)	
家族	12,500 (500×25)	13,000 (500×26)	
法人	200,000 (10,000×20)	330,000 (10,000×33)	
事業費	455,000	1,164,800	
大会・総会費	0	854,800	
Sommer Treffen	140,000 (2,000×70)	142,000	
クリスマス会	175,000 (3,500×50)	168,000	
Winter Treffen	140,000 (2,000×70)	0	
寄付金・雑収入	70,000	154,812	
祝金	30,000	59,000	
寄付金	30,000	86,200	
その他	10,000	9,612	
(合計)	1,236,134	2,209,563	
支出の部			
	本年度予算	前年度実績	
事業費	470,000	1,363,860	
大会・総会費	0	962,300	
Sommer Treffen	140,000	145,720	
クリスマス会	175,000	243,840	
国際フェスティバル	15,000	12,000	
Winter Treffen	140,000	0	
会議費	10,000	12,290	
通信費	90,000	96,540	
事務費	5,000	409	
印刷費	450,000	468,300	
講演会費	0	60,000	
広報費	0	0	
出張交通費	30,000	20,000	
交際費・寄付金	25,000	42,000	
振込手数料	15,000	16,930	
手簿費	141,134	0	
(合計)	1,236,134	2,040,929	

## 故郷に抱く真柱

～ぐんま日独草創期の思い出～

ぐんま日独協会顧問 朝雲 久児臣

あの日は少林山の桜が満開でした。洗心亭を案内されてユンク公使夫妻は感慨一入の面持ちで、小さな茅屋を眺めていました。達磨寺の一室で住職の点てた茶を味わいながら、一行はしばし歓談していたときです。平形会長が呼びかけました。

「みなさん、いかがでしょうか。タウトのために瞑想しようではありませんか」

と。身仕舞いを整え一同はしばし瞑目しました。芽生えた樹木の葉が微風によって香りを運んできたのを覚えています。昭和が「平成」の世になったときのことです。わたしの「ぐんま日独」とつながりはこのときに生まれました。

あれから15年になります。会報「ハイマート」は今回で27号を迎えるとのこと。名ばかりの編集者として過ごしてきた期間は10年くらいになりましょうか。原型を創ったときのレイアウトを見ると懐かしさがこみ上げてくるし、「ぐんま日独」草創期の意気込みのようなものがふつつつと身内に湧いてきます。仕事の多くは事務局の沢井さんが洗練されたセンスで、会長と連絡を取り合いながら処理していったものでした。少林山を見はるかす丘陵台地の書齋にあって、『もうひとりのブルーノ・タウト』は執筆され、「ぐんま日独」の企画・協賛で出版されたのは平成2年10月のことです。翻ってみると、平形会長と、「ハイマート」と、タウト本は、そのままわたしにとって「ぐんま日独」の歴史と結びついていることに気がつきます。会をめぐる運営や事業などについてのエピソードは、数えき

れない多彩な出来事を彷彿と浮かび上がらせ、消えることはありません。角田さん、佐藤さん、中村さん、土屋さん、田口さん、北爪さん、対馬さん…などといった人々の顔ばせが、忘れていた催物の一つ一をくつきりと現実の事象に蘇らせてくれます。

高崎を離れ、武蔵野の面影をほのかに留めている浦和郊外に移り住み、日々を執筆に明け暮れているわたしです。『ロキの神話』という3000枚に達する哲学小説を書き上げました。8年間の歳月をかけて完成できたのは、あの『もうひとつのブルーノ・タウン』の苦闘のドキュメントを体験したからでしょう。作家として、文明評論家として自負できるものが自分のなかにささやかな灯火を燃やしているのは、「ぐんま日独」に籍を置いたからではなかったか。そう思えてなりません。

「ハイマート」は新たな編集長が選ばれたようです。期待をもって会報の装いと内実を見守りたいと思う。会員の望む編集方針を確立したら、それに向かって編集者としての個性を十分に発揮してもらいたいものです。「ぐんま日独」の象徴としての「ハイマート」に精気を与え、老熟の知性に爆発の芸術を刺激し続けることを願ってやみません。自分の生涯を包括する作品になるのであろう『文明の化石』を完成させるための真柱になってくれることを、心から祈りたいと思いでいっぱいです。

(平成15年2月5日)

### 俳句

自ずから合掌したる初日かな

(高崎 小林 和男)

尾白鷺巖頭の松動かざる

冬銀河宮澤賢治惚ぶ旅

(安中 井口 桐花)

晩三吉作る跡とり梨農家

造志館築地の奥に破芭蕉

薪ストーブの燠のほこほこくづれけり

## 新島 襄と群馬

安中市 井口 實

新島襄は江戸の安中藩邸に生まれ、幼名を七五三太と呼ばれたが、左のこめかみに大きな傷を遊んでいてつくった程であるから、おとなしかったとは思えないものの、学ぶことでは、学者でもあり藩主であった板倉勝明公に見出され、元服前には選ばれた3名の中での最年少で、蘭学を学ぶという英才であった。元服した折の諱は敬幹であるが、尊敬していた藩主勝明公の死により、弟勝殷公に代った為、安中への藩主帰国に駕籠脇をつとめ乍らずでなんとかして、藩からの離脱を考えるようになっていた。

江戸で友人から借用した書物から日本の新しい国づくりの為には、外国を見なければの思いが増し、先ず、函館に国内留学を果たした。機会を得た敬幹は、函館より脱国、アメリカで実業家ハーデーに守られて、アーモスト大学からアンドーヴァー神学校と学び、アメリカンボードの宣教師として10年振りに帰国、父母の住む安中からキリスト教を伝える生活に入った。

新島の畢生の目的はニュー・イングランドで学んだ会衆派の立場で「自由教育自治教会両者併行国家万歳」であった。従って一致教会（長老派）・組合教会（会衆派）併合の合同運動には、教会民主主義の自由を失うということで反対した。この運動は成立せずに終わった。

新島の心のふるさとが安中であつたように群馬県は、安中のあるふるさとであつた。キリスト教主義に立つ大学（ユニバーシティ）を、日本に何としても、という思いは、設立募金の為に、国内の人々を動かし、

アメリカの人々を動かした。群馬県には井上馨の添状を持って佐藤与三群馬県知事も訪ね、知事の斡旋では前橋の有力者に協力依頼も行っている。この間健康を害し東大病院でベルツ博士の診察を受けている。

自治教会（会衆派）設立にも大学設立と同様、全力での併行となった。安中教会からは原市教会・甘楽教会・前橋教会を生み出し、同志社卒業生（牧師）との連携では、高崎・安中・原市・甘楽・前橋・沼田・西群馬・桐生の諸教会の状況に応じて牧師に助言をし、新しい教会形成に努力し伝道上の経済的応援もしている。

伝道では、栃木・佐野・長野・新潟他全国に及び学校設立また東北に及んだ。前途の教育では前橋の共愛女学校設立の折、發起人の要請も受け承諾している。滞米中、岩倉遣外視察団に随行した欧米で宗教の上に立つ文化にうたれ、新しい国家に役立つ青年育成はキリスト教主義に立つ大学をと心血を注いだ。

安中周辺に親類縁者があつたものの新島家は江戸からの帰国後八年で京都へ移住、新島自身も安中滞在通算52日と少なく従って群馬とのつながりが薄いようにも思えるが、新島の影響を受けた人々によって明治の幼児教育から昭和の新島学園誕生までの卒園生・卒業生の総数は2万5,000名を数え、新島のふるさとに立派に開花している。

1890年(明治23)1月、大磯の客舎で46歳の生涯を閉じた。



安中市指定史跡  
新島家旧邸



## ノイシュヴァーンシュタイン、ミュージカル劇場

館 林 市 対 馬 良 一

ヨーロッパ各地では季節を問わず多くの街で、ミュージカルやオペラ、音楽会が開かれている。一昨年夏の津軽三味線演奏旅行で幸いにも、ノイシュヴァーンシュタイン・ミュージカル劇場でルートヴィヒ二世の生涯のミュージカルを観劇する機会があった。

ロマンチック街道の最終地、フュッセンに、2045mのゾイリング山を背景に聳えるノイシュヴァーンシュタイン城がある。ドイツ旅行者の憧れの観光地で多くの日本人が訪ねている観光スポットであるが、さらに、新しくこの劇場が観光客を引き付けている。

ルートヴィヒ二世のミュージカルのために建てられた劇場は、フォルゲン湖畔の広場にあり1300の客席をもつ近代的な劇場である。

「ルートヴィヒ二世、パラダイス(楽園)へのあこがれ」というタイトルでの上演。予備知識もなく入場したので劇場内で若干の戸惑いがあったが、退屈せずに観劇できた。

舞台上部に日本語など四ヶ国語の字幕映像が映し出され、私たち外国人にもミュージカルの面白さや、歌詞の内容が理解しやすくする配慮がなされていた。約3時間の上演時間も字幕見ながら舞台が楽しめた。本物の馬が登場したり、クライマックスは、ルートヴィヒ二世がシュタンベルク湖に入水自殺する場面の水の舞台トリックは圧巻だった。

ここで、参考まで私の経験から劇場に観劇される方のために記してみます。

### 1. 交通

ミュンヘンよりフュッセン行き直通電車あり、約2時間(バスも出ている)フュッセン駅からバス、タクシーで約15分

### 2. 開演時間と料金

冬夏によって若干異なる。

火曜日～日曜日 19:30

土曜日～日曜日 14:30(昼夜上演)月曜休

料金は客席によるが、約5000円～12000円位

(チケットは予約必要)

### 3. 服装

特別豪華な衣装は要らないが、女性ならワンピースかスーツ、男性は背広ネクタイか、ノーネクタイで清楚な服装でもよい。靴は革靴等、スニーカーは？。

### 4. 着席のマナー

遅れての入場、開演中への入退席禁止。トイレは入場前に済ませる。

席が中の人は早めに席に、端の席の人は遅めに、席列の人が全員揃うまで座らない。

### 5. カメラ

写真撮影は開演前とカーテンコール時以外は禁止

### 6. 拍手

上演中には拍手はしない。休憩前の幕間、カーテンコール時のみ。

30分位の休憩時間がある。休憩時間に軽食、終演後は市内のレストランが閉店。

以上思いついた事を書いてみました。ぐんま日独協会旅行の際には日時を調整してこの、ノイシュヴァーンシュタイン、ミュージカル劇場で、ドイツ旅行の思い出に、素晴らしい舞台芸術を堪能してみたいかですか。



## ドイツ人ゲオルグ・レナーツ氏による 環境問題講演会

在京のドイツ人を迎え、群馬県主催で環境問題をテーマにした講演会が前橋市で行われました。講師がドイツ人であることを勘案し、ぐんま日独協会としてもWinter Treffen(冬例会)として位置付け、多くの会員が参加し、聴講しました。

日 時 2003年(平成15年)1月18日(土)  
13:30～16:00

場 所 群馬県社会福祉総合センター 8階  
大ホール ……前橋市新前橋町……

講 師 ゲオルグ・レナーツ氏  
……ドイツモーゼル川地方マイエン市出身  
で、ISO主任監査員。

環境法専攻の法律家で、日独ごみ問題の各種論文あり……

テーマ 「ドイツ人から見た日本の環境問題あれこれ」

概 要 1 講演は、上手な日本語で行われ、大変わか

りやすいものであった。

2 ドイツは環境先進国といわれているが、その根本は、“合理性を柱とした法整備”と“環境NGOの活動”に負うところが大きい。

3 法整備の理念は、循環型社会の構築であり、その中心は“発生抑制”と“供給者責任”の考えがある。

4 日本では、「環境問題と経済発展は相反する」と言われるが、ドイツでは、「環境対策の推進は、時代に対応した新しい産業が生まれる」と言われる。

5 集まった人達は、環境問題に関心の高い人が多いためか、質問が多く、時間打ち切り、となるくらい盛会であった。

(以上 報告 鈴木克彬)